

## 文化財としての日本の天然記念物

< 桂 雄 三 >

文化財は様々な種類があり、併せて我が国の風土、歴史、文化、生業、暮らしに関するあらゆるものを保護活用していく仕組みです。天然記念物は自然物を対象としますが、天然記念物自体も、全ての文化財と同じくらいの広がりを持っています。



写真1

高知県南国市の特別天然記念物「土佐のオナガドリ」と世話をする田島さん(故人)。

写真2

群馬県嬭恋村にある天然記念物「湯ノ丸のレンゲツツジ群落」。牛の放牧地となっており、レンゲツツジに含まれる有毒成分のため牛が食わず、レンゲツツジ群落が成立している。嬭恋村ではボランティアを募って、定期的にレンゲツツジの日照を妨げる雑木の伐採を続けている(本間晁撮影)。



写真3

秋田県美郷町にある天然記念物「千屋断層」。右(西)から左への上げた逆断層運動が地形からも明瞭。この崖は、河川の浸食で現れたもので、指定地には入っていない。



写真4

有名な小藤文次郎の写真と近い位置から見た、岐阜県本巣市の特別天然記念物「根尾谷断層」。濃尾地震発生後百年以上の歳月を経てなお明瞭な断層崖（中央左奥から右手前に続く）。右端には断層トレンチを公開した地下観察館も整備されている。4kmほど北西にある、茶の木の列がずれた横ずれ断層も併せて指定されている。

写真5

兵庫県淡路市の天然記念物「野島断層」。平成7年1月17日に起こった兵庫県南部地震の元凶である右横ずれ逆断層を140mにわたって室内で保存展示している。隣接する被災した家屋も併せて指定し、公開している。

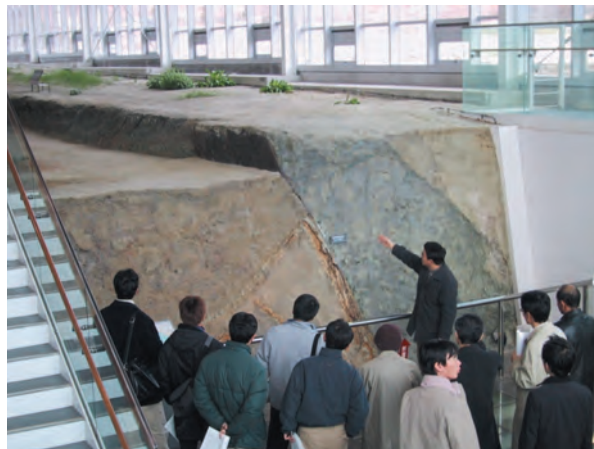


写真6

秋田県にかほ市の天然記念物「象潟」。水田面は1804年の象潟地震前の潟湖の湖底、小山は鳥海火山からの流山。水田に水が張られると、芭蕉が訪れた松島と並ぶ一大景勝地「象潟」がよみがえる。



写真7

兵庫県豊岡市の特別天然記念物「コウノトリ」。野生でのコウノトリが絶滅して34年、手厚い保護増殖事業により平成17年9月再び野に放たれたコウノトリは、野生での採餌、孵化そして平成19年夏には巣立ちを迎えた。単なる野生生物の保護ではなく、無農薬・減農薬の農業や地域の再生のシンボルとしても機能している（兵庫県立コウノトリの郷公園撮影）。